

平成13年度の成果と課題

研究推進体制、教師の意識等について

互いに学び合い、これまでの授業を改善しようと努めてきた。
連絡を取り合い、可能な限り互いの授業や生徒の姿を見合って、実践的に研究を進めようとしてきた。

生徒の実態等について

英語に苦手意識をもっていた生徒の中に、活動に意欲的に取り組む姿が生まれつつある。
特に高等学校において、生徒間の到達度に差がみられる。

研究テーマ

生徒のコミュニケーション能力を高める効果的な指導と評価のあり方
～生徒の実態を踏まえ、互いのよさを生かし合う中高連携のあり方～

平成14年度の具体的取り組み内容

中学校として

○高等学校との授業交流を生かしながら中学校におけるめざす姿を明らかにし、それをもとに、観点別の評価規準を明らかにした指導計画を作成する。
コミュニケーションを図る活動や繰り返し練習する活動のバランスを考え学習過程を工夫する。
コミュニケーションの必然性がある活動を工夫するとともに、自分の伸びや次のめあてを意識できる評価の工夫をする。

高等学校として

中学校の授業参観で学んだよさを生かし、生徒の実態を踏まえ、個々の到達度に合わせた英語による授業展開を工夫する。
活動目標を明確に提示し、生徒が目的意識をもって取り組むことができるようにする。
4領域を考慮した活動を通し、基本的な力を身に付けることができるようにする。